

2月下旬のどか雪には「まいった！」

現地調査し、市長に申し入れ



2月下旬にもなってからのどか雪、思わぬ降雪で多くの人たちがたいへんな思いをして雪処理を余儀なくされました。

日本共産党議員団では先月24日、県災害救助条例が適用された中郷、板倉、大島等を視察しました。被災者からは、「除雪機の燃料代がかかって大変だ」「これだけ降っても災害救助法が適用されないなんておかしい」などの声を寄せていただきました。

こうした声を受け議員団では26日、大雪に関する市長への緊急申し入れ書を笹川総務管理部長に提出しました。申し入れ書を受け取った部長は、市長及び関係部長に伝えると約束しました。

緊急申し入れ書は、①この間の大雪で

屋根の雪下ろし等の回数が増えていることを踏まえ、要援護世帯の除雪費支援を緊急に増額すること、②自力で除雪できない高齢者宅などを日常的に見回り、出入り口を確保するなどの作業を行う冬期の保安担当スタッフの配置を制度化すること、③ 個人所有除雪機の燃料費の助成を行うこと、④ 県災害救助条例が適用されても、要援護世帯の除雪費助成金額が変わらないなどの限界がある。災害救助法の適用を柔軟に行うよう、市として当局に強く働きかけ、市民生活を守る措置を講じること、など7項目です。

イラストは緊急申し入れ書を提出後、笹川部長と懇談する日本共産党議員団。写真は板倉区での現地調査の様子です。

コロナ禍での苦悩次々…文経委が飲食業者などと意見交換

「いまは何とか支援金でつないでいる。コロナがいつ収束かと心配している」「居酒屋、食堂への卸しはまったくのアウト。店売りも近所の人しか来る程度だ」「いろんなことをやってきた。いまはやるすべが何もない」「いまのこの状況で行くと、上越の市場が無くなる可能性がある。市場がたいへんなところにある」……2月25日、市議会文教経済常任委員会と飲食・宿泊事業者等との意見交換会では、業者のみなさんのきびしい実態が出され、切実な要望がいくつものべられました。こういうときこそ議会の出番です。



地域主体の自主的なまちづくりには地域計画が必要です

吉川区地域協議会研修会が先月26日行われ、名立区まちづくり協議会の三浦元二会長が名立区での地域づくりについて報告されました。

三浦会長は、「地域主体の自主的なまちづくりを進めていくときに、その地域がめざすまちづくり像が必要であり、その地域の総合計画における地域計画が必要だ。地域の個別課題を議論することは重要だが、『大きなものが見えないなかで議論しているのではダメだ』とのべています。重要な指摘です。」

上越市は、来年度から第7次総合計画がスタートします。この計画づくりにおいて地域計画をぜひ重視してほしいものです。

【プリムラ】サクラソウ科の園芸植物。春を呼ぶ野の花の1つです。「プリムラ」というのは「小惑星」という意味です。ヨーロッパやアジアで原種やその変種がたくさんあります。いま、一般家庭で咲かせている花の中ではこの花がけっこう多いのではないのでしょうか。花言葉は、「神秘的な心」「愛情」「可憐」「うぬぼれ」「運命を開く」などです。



はしづめ法一の活動レポート

No.2051 2022.3.6
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第六九八回 いつものポーズ

先々回の「春よ来い」で書いた柿崎区の介護施設に行ってきました。入所している叔父のことが気になったからです。

先日、実家の雪掘りに来たという従弟（いとこ）に電話をしたところ、「今年になって急に足が弱くなり、車イス生活になったというので行ってきました。親父もだいぶやせました」と言っていました。

叔父は昨年末で満九六歳になってます。いくら頑丈な体でも、どこかに悪いところが一つや二つ出てきても不思議ではない年齢です。「これは少しでも早く会っておこう」、そう思いました。

予約した時間に施設へ行くと、スタッフの人が待っていて下さいました。体温、ワクチン接種の状況などのチェックを受けていると、奥の方から叔父の声が聞こえてきました。そして、まもなく、車イスに乗った叔父の姿が玄関の窓越しに見えました。叔父は私の姿を見るとすぐに、右手をあげるいつものポーズで、

「おー、ありがとう」
「おー、ありがとうございます。」
「やせた」とのことでしたが、前回会ったときに比べても極端なやせ方はしていませんでした。何よりもうれしかったのは、何十年前からのポーズで「おー」と言ってくれたことです。

これならまだ大丈夫だと思いました。私からの第一声は「元気かね」です。この問いかけに叔父は、これまた元気に「はいよー」と言ってくれました。

この日の前日、私は叔父の長女である従妹（いとこ）のところへ電話し、施設で叔父と会ったらスマートフォンを使ってテレビ電話をする約束していました。前にも一度、親子でうれしそうにテレビ電話をしていたことが忘れられなかったのです。

叔父に、「いまねえ、フミちゃんと電話するからね。待っててね」そう言うと、叔父は「はあ」とだけ返事をしました。

「こんにちは」

「ほら、とうちゃん、フミちゃんだよ」

「あー」

「こんにちはー」

「フミちゃんだよ、見える？」

「……」

「（お父さん）元気？」

「ここまで行って、やっと叔父が大きな声で言いました。」

「元気だよ」

「元気でいてくんたね、ありがとね。良かった」

安心したのでしょね。従妹の顔もゆるみました。

私と従妹で「良かったね」「良かった」とやっているところ、ここでまた、叔父が大きな声で言いました。

「ありがとう！」

今度はハッキリと自分の娘だとわかったようです。

「お父さん、良かったあ」

「はいよー」

「行かなくて、ごめんね」

「ありがと！」
新型コロナウイルス感染症の広がりで、全国、いや世界で大勢の親子や夫婦などが分断され、会えなくなっています。それだけに、こういう場面は何度見ても胸が熱くなります。

この日はわずか三分ほどの親子対話でしたが、テレビ電話後、私は叔父とも話をしました。

「どっか、わり（悪い）どこないかね」

「大丈夫！」

「おらばちゃんも元気だわ、こんだ九八！」

「はーあ」

こんな調子で会話をしました。そして叔父は今回も玄関ドアのぎりぎりのところで私を送り、また、右手をあげるいつものポーズで「バイバイ」をしてくれました。

朝市で「わらぐつ」販売

直江津の三ハ市でわらぐつ（ふかぐつ）が販売されていました。私も子どもの頃、はいたことがあるだけに懐かしくなりました。

お店では、大人用、子ども用、そして飾り用のものが並んでいました。しかもそばにはコンニャクや千マキも。これらを見ただけでも元気になります。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月23日(水)	3月2日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.050	0.043
新井消防署	0.060	0.053
頸北消防署	0.053	0.050
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.043	0.047
名立分遣所	0.057	0.060
高士分遣所	0.050	0.050

雪の山道でも「灯の回廊」

先週の土曜日に市内各地で行われた「灯の回廊」、賑わいました。注目した取組の1つは、大島区の細越平成会の「薬師山道ユキノアカリ」です。薬師山への雪道に450個ものキャンドルを灯しました。雪道の長さは2kmほど、星空の下、本格的な雪道を歩くのはきつかったです。登る途中、下山してきた夫婦が「みなさん、橋爪さんを待っていましたよ」。そう言われれば、何がなんでも平成会のみなさんのところまで行かなければなりません。頑張りました。



イラストには帰り道に印象に残った一本杉を入れて、手前に私の姿も描き込んでみました。